

分野:器官系統病態学

主科目 副科目	呼吸器・アレルギー学 Respiratory medicine and allergology	DM_1412	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--	---------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎長瀬 洋之 川村 雅文 坂尾 幸則			倉持 美知雄 杉本 直也	山口 正雄 (教授) (ちば・三内)
-					
-					

	呼吸器・アレルギー学Ⅰ (1年次)				呼吸器・アレルギー学Ⅱ (2年次)				呼吸器・アレルギー学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	呼吸器・アレルギー学における主要な疾患である喘息、COPD、間質性肺疾患、肺癌はもとより、様々な疾患を幅広く診療し、基盤となる病態および治療について講義、演習、実習を通じて習得する。また、呼吸機能の解釈、画像の読影、気管支鏡、呼吸管理の基本的事項も習得する。				呼吸器・アレルギー学における主要な疾患である喘息、COPD、間質性肺疾患、肺癌はもとより、様々な疾患を幅広く診療し、最新の病態および治療について講義、演習、実習を通じて習得する。また、呼吸機能の解釈、画像の読影、気管支鏡、呼吸管理も習得し、専門臨床力のレベルを高めることを目指す。				呼吸器・アレルギー学における主要な疾患である喘息、COPD、間質性肺疾患、肺癌はもとより、様々な疾患を幅広く診療し、最新の病態および治療について習得するとともに、臨床の様々な症例に対して応用できる力を身に付ける。また、呼吸機能の解釈、画像の読影、気管支鏡、呼吸管理の知識を更に深める。学会での発表、専門医取得の準備を行い、高い専門臨床力と病態解析への理解を備えた医師を目指す。			
到達目標	1, 呼吸器の生理機能について、専門的に説明ができる。 2, アレルギー・免疫の機序について、専門的に説明ができる。 3, 呼吸器・アレルギー疾患を的確に診断し、治療が実践できる。 4, 診断に必要な検査(血液・喀痰検査、呼吸機能、血液ガス、画像、気管支鏡など)を適正に解釈できる。				1, 呼吸器・アレルギー疾患、特に悪性疾患・難病の病状や予後について、患者並びに家族に配慮した説明ができる。 2, 呼吸器・アレルギー疾患の患者が必要とする社会的支援(在宅療法など)の手配が適切に行える。 3, 呼吸器・アレルギー疾患について、他領域からのコンサルトに対応できる。				1, 呼吸器・アレルギー疾患に関する倫理的事項への対処、医療安全上の諸問題への対処が行える。 2, 呼吸器・アレルギー分野の卒前教育、卒後教育を担当できる。 3, 呼吸器・アレルギー分野における最新の情報を生産、発信できる。 4, 呼吸器・アレルギー分野の学会発表を行い、学外専門家との議論ができる。 5, 呼吸器・アレルギー分野における国際的動向を把握し、本邦の事情に即した実践ができる。			
事前事後学修	症例の臨床的問題点について最近の教科書、文献で調べる。 次回の授業範囲を予習し専門語学の意味を理解しておく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				症例の臨床的問題点について最近の教科書、文献で調べる。 次回の授業範囲を予習し専門語学の意味を理解しておく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				症例の臨床的問題点について最近の教科書、文献で調べる。 次回の授業範囲を予習し専門語学の意味を理解しておく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	発表(プレゼンテーション) 50% レポート 50%				発表(プレゼンテーション) 50% レポート 50%				発表(プレゼンテーション) 50% レポート 50%			

■主な演習(講義・実習含む)

	呼吸器・アレルギー学Ⅰ (1年次)	呼吸器・アレルギー学Ⅱ (2年次)	呼吸器・アレルギー学Ⅲ (3年次)
板橋	月 曜日 18 : 20 ~ 19 : 50 呼吸器疾患総論 -びまん性肺疾患のアプローチを含め-	水 曜日 9 : 15 ~ 12 : 00 呼吸器・アレルギー 臨床検討会	水 曜日 9 : 15 ~ 12 : 00 呼吸器・アレルギー 臨床検討会
	水 曜日 9 : 15 ~ 12 : 00 呼吸器・アレルギー 臨床検討会	水 曜日 14 : 00 ~ 17 : 00 気管支鏡検査	水 曜日 14 : 00 ~ 17 : 00 気管支鏡検査
	水 曜日 14 : 00 ~ 17 : 00 気管支鏡検査	金 曜日 18 : 20 ~ 19 : 50 最新のガイドラインに沿った喘息治療	木 曜日 18 : 20 ~ 19 : 50 膠原病性肺疾患
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

教科書・参考書

新臨床内科学(第9版)医学書院、内科学(第11版)朝倉書店、内科学(第4版)文光堂、呼吸器外科学(第4版)南山堂、ハルソン内科学日本語版(第5版)

その他履修上の注意事項

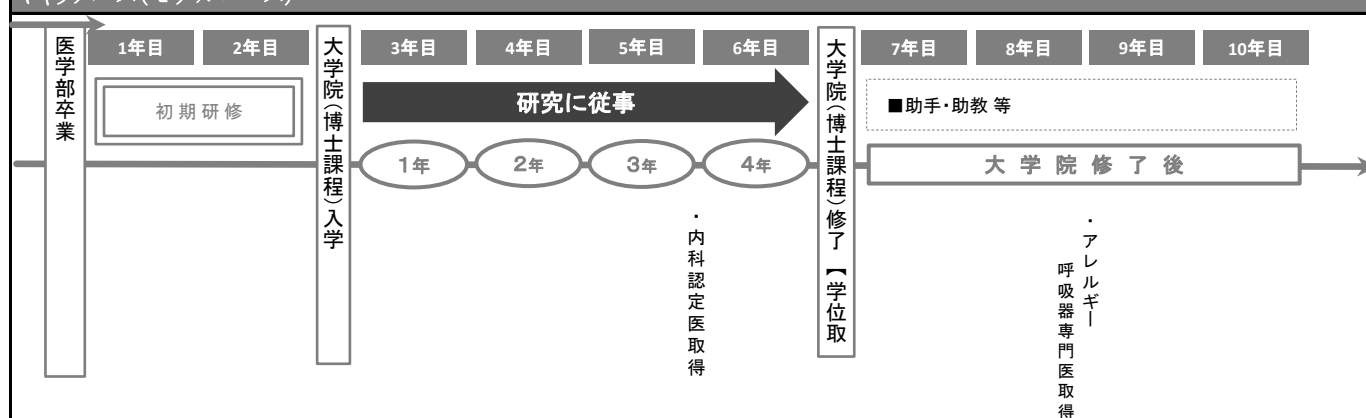
本科目においては、呼吸器・アレルギー学における主要な疾患である喘息、COPD、間質性肺疾患、肺癌はもとより、様々な疾患を幅広く診療し、知識および手技を修得するとともに、学会での発表、専門医取得の準備を進め、病態の解析方法を知り、高い専門臨床力と研究への理解を備えた医師を目指す。
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	1) 呼吸器外科学、放射線診断学・放射線腫瘍学、臨床腫瘍学、生体防御感染症学から副科目1科目以上を選択。 2) 人体病理学・病理診断学、生理学系、細胞組織学などの副科目の履修。
	共通科目	呼吸器病学特論

関連する専門医資格

認定内科医・総合内科専門医(日本内科学会)、呼吸器専門医(日本呼吸器学会)、アレルギー専門医(日本アレルギー学会)、気管支鏡専門医(日本呼吸器内視鏡学会)、感染症専門医(日本感染症学会)

キャリアパス(モデルコース)



※社会人枠のキャリアパスについては各講座にお問い合わせください。